

大学でできる国際交流

# 世界とつながり、 学ぶために



大学生活の目標に、海外での学びを掲げる人は少なくないはずです。  
本格的な海外留学の再開に向けて、教員と学生に国際交流の取り組みを聞きました。  
また、留学体験者からのレポートもお届けします。

## 国際交流機構

### 春に留学説明会を実施 日常的に相談の対応も

田村 あずみ 准教授



2017年～2019年度は年平均で交換留学は12大学に65名、受け入れは152名でした。コロナ禍で大きな打撃を受け、2022年度も夏季休暇中の短期研修プログラムは中止に。交換留学は1名がオランダのゾイド大学に旅立ちました。受け入れ留学生は120名(5月1日現在)と、まだまだ回復にはいたりませんが、海外および国内の規制緩和などの状況を鑑みて、従来の水準で実施できるように取り組みを進めています。4月と5月には留学説明会を開催。留学の本格再開に備え、今から自分の興味関心にあった留学の形を考えておくことや、就職活動や単位取得との兼ね合いを考慮して留学計画を立てるなどを指導しました。普段は教員がオフィスアワーを設け、国際交流課で個別の留学相談を受け付けています。

今後は、JCMU(ミシガン州立大学連合日本センター)やCIEE(国際教育交換協議会)京都といった他機関との連携プログラムによって来日している留学生と、本学学生の交流イベントなどを実施予定です。

## 国際交流アソシエイト

### グローバルセミナーで 国際的な議題に関心を

楠本 涼瑛  
経済学部 明星高校(大阪府)



国際交流アソシエイトは、海外から滋賀大学にくる学生に対し、日本語や英語で学習サポートすることを目的に活動しています。ほか、滋賀大学や本学と提携を結んでいる教育機関が実施する、数週間から半年程度の短期研修で来日した外国人留学生の学習アシスタントや交流プログラムの企画運営も行っています。また月に1、2回、さまざまな領域で活躍されている方にお話いただく「グローバルセミナー」を、国際交流機構と共催しています。今年度もJICA滋賀デスクの桂武邦さんや、フィンランドセンター所長のアンナ＝マリア・ウィルヤネンさんをお迎えして実施しました。海外留学では国際問題、国際関係など幅広い話題で議論が行われ、自分の意見を持つことが求められます。セミナーが知識を吸収したり、国際情勢に興味を持つきっかけになればと思います。アソシエイトは国際交流課が運営している団体で、滋賀大生で国際に興味があれば誰でも参加できます。アソシエイトへの参加をお待ちしています！



## 留学 体験記

### 異文化理解・コミュニケーションを学びに 交換留学で1年間オランダへ

藤原 直樹 教育学部 槻の木高校(大阪府)

将来、グローバルな仕事をしたいと留学を決意しました。準備でいちばん注力したのは、やはり英語の勉強です。1日30分の英会話学習と大学のAcademic Express 3にあるリスニング、リーディング、ライティングのパートを毎日欠かさず取り組みました。また、留学の実現に向けてモチベーションを保つことも必要だと感じます。

留学先では、オランダ人学生4名と取り組んだプロジェクトワークが印象に残っています。国民性の違いからチーム内での対立も経験しましたが、最後には全員が納得する形で終わることができました。こういった“日本とは違う考え方”を得られたのは大きな収穫となりました。



プロジェクトメンバーとの記念写真